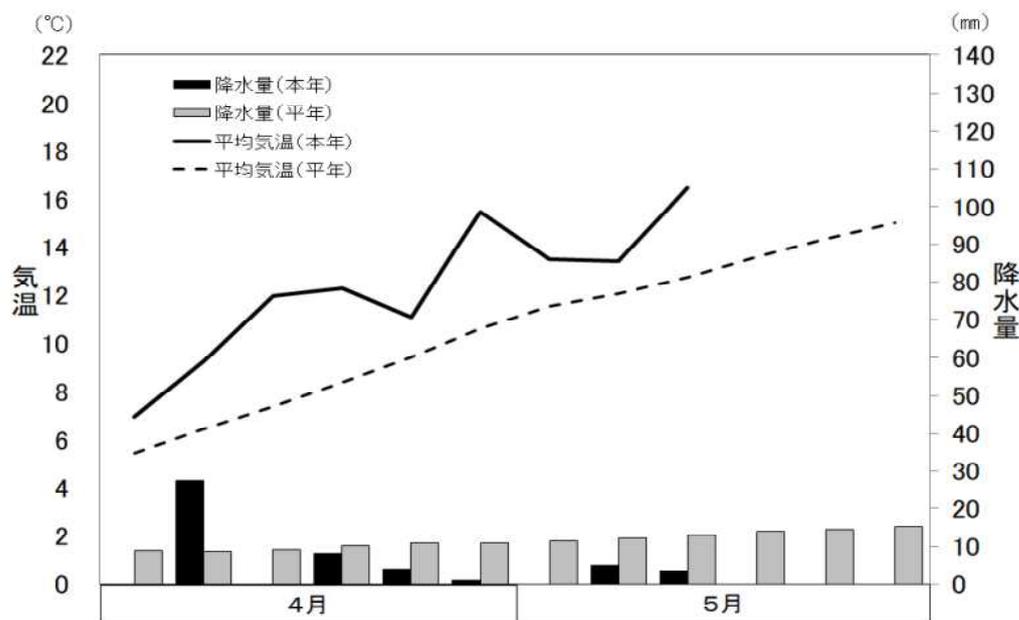


上北農業生産情報 第2号

令和6年5月20日
上北地域県民局地域農林水産部長

- 田植えは5月25日頃までに終わらしましょう!!
- ながいも、ごぼうの土壌消毒で使用するクロルピクリン剤は、安全・適正に処理しましょう!!
- 農作業事故には十分注意し、事故のないように心がけましょう!!

気象



半旬別平均気温・降水量の推移（十和田アメダス）

<4月>

平均気温は、期間を通して平年を上回った。
日照時間は、期間を通して平年を上回った。
降水量は、上旬は平年を上回り、中・下旬は平年を下回った。

【4月の気象（十和田アメダス）】

項目 時期	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	8.1	6.0	14.6	11.5	1.5	0.4	80.1	60.3	27.5	17.7
中旬	12.1	7.9	19.2	13.7	5.6	2.0	79.2	61.8	8.0	19.2
下旬	13.3	10.1	19.7	16.0	7.3	3.9	72.5	64.2	5.0	21.9

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計。

<5月上旬>

平均気温及び日照時間は、上旬は平年を上回り、中旬は平年を下回った。
降水量は平年を下回った。

【5月上旬の気象（十和田アメダス）】

項目 時期	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	12.0	11.8	17.2	17.7	6.2	5.9	68.3	63.3	5.0	23.5
中旬	8.3	13.2	11.5	18.8	4.1	7.8	35.7	62.7	3.5	27.1

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計。

東北地方 1か月予報（5月18日から6月17日までの天候見通し）

令和6年5月16日 仙台管区气象台 発表

- 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- 暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- 高気圧に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の日照時間は平年並か多いでしょう。

水 稲

《生育状況》

- 1 は種後の好天により、出芽及びその後の苗の生育は概ね順調であった。
- 2 田植え作業は、十和田市の一部で5月7日頃から始まった。管内全体の田植え始め（5%到達日）は平年より2日早い5月12日であった。

《今後1か月間の主な作業》

- 1 水管理
田植え後は苗の活着と生育を促進させるため、「昼間止水・夜間かんがい」の基本を守る。温暖な日は2cm程度の浅水で水温を上昇させ、低温の日は苗が冠水しない程度の4～5cmのやや深水で管理する。
- 2 病虫害防除
ア 補植用苗をほ場に放置するといもち病の発生源となるので、補植が終わったら直ちに処分する。
イ 畦畔のイネ科雑草はカメムシの発生源となるので、開花・結実する前にこまめに刈り取る。
- 3 除草
ア 一発処理除草剤の連用水田で、昨年アゼナ類やホタルイ類が残った場合は、SU抵抗性雑草と推定されるので、これらの雑草にも有効な成分を含む一発処理除草剤や体系処理剤（初期＋中期剤）に変更する。
イ 除草効果を高めるとともに水質汚染を防ぐため、除草剤散布後7日間は落水や掛け流しは行わない。

小 麦

《生育状況》

- 1 生育観測ほ（5月10日現在）の生育は、草丈は平年を上回り、茎数は平年を下回った。
- 2 生育観測ほの出穂期は、平年より7日早い5月12日であった。
- 3 病虫害の発生はみられなかった。

【生育観測ほの生育状況（品種：ネバリゴシ）】

調査地	年次	5月10日現在		止葉抽出期 (月/日)	穂期 (月/日)	開花期 (月/日)
		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)			
十和田市相坂	本年	67.7	867	5/3	5/12	(5/18)
	平年	52.3	894	5/8	5/19	5/27
	前年	63.3	1008	5/4	5/16	5/24

注) 平年値は平成23～令和5年の13か年の平均値(止葉抽出期：平成28～令和5年の8か年の平均値)

注) 本年の開花期は、出穂期からの積算気温での見込値

《今後1か月の主な作業》

1 病害虫防除

ア うどんこ病・赤さび病

生育が旺盛なほ場を中心にうどんこ病や赤さび病の発生が予想されるので、病害虫発生予察情報やほ場の状況を確認し、適期防除に努める。

うどんこ病の防除は、病斑が止葉直下葉に発生した直後に薬剤散布を行うと効果的である。

アミスター20フロアブルは、出穂後に使用するとその後の赤かび病防除時にカビ毒汚染低減効果が劣る場合があるので、出穂後は使用しない。

イ 赤かび病

赤かび病は、人畜に有毒なカビ毒が生じるため、防除を徹底する。

開花始めから開花期に1回目の防除を行い、その7日後に2回目の防除を行う。その後、天候不順が続く蔓延の恐れがある場合は追加防除を行う。

開花期までうどんこ病の防除を行っていない場合は、1回目の薬剤散布時にうどんこ病にも登録のある薬剤を使用し、同時防除を行う。

大豆

《今後1か月の主な作業》

1 施肥

施肥方法は、原則として全量基肥とする。

【施肥量の目安】 (10a 当たり施肥量)

区分	窒素	りん酸	加里
基肥	2～3kg	10～15kg	8～10kg

注) 前年に野菜類を作付したほ場は無肥料(窒素成分)とする

2 種子準備

紫斑病及び鳥害・虫害対策のため、必ず種子消毒を行う。

3 は種

下表を基準に、は種時期が早い場合は疎植、遅い場合は密植して生育量を確保する。

【品種別栽植様式(おおすず)】

は種期	うね幅	栽植本数	は種量
5月中旬～5月下旬	60～80cm	20,000本程度/10a	7～8kg/10a
5月下旬～6月上旬	60～80cm	20,000～30,000本/10a	7～12kg/10a

4 除草

ア は種後出芽前に土壌処理剤を散布する。土中で種子が萌芽していると薬害を受ける恐れがあるため、は種後3日以内の散布を目安とする。

イ ほ場が乾燥している場合は、散布水量を多めにする。

ながいも

《今後1か月の主な作業》

1 土壌くん蒸剤の使用

土壌くん蒸剤の使用に当たっては、人畜への被害や周辺作物にドリフトしないよう対策を徹底する。特に、クロルピクリン剤を使用する場合は、すぐにポリエチレンフィルム等(厚さ0.03mm以上または難透過性の資材)で被覆し、使用済みの空き缶は、適切に処分する。

2 植付け

- ア 100～150gの子いもは、頂芽を切除して5月中旬～6月上旬に植え付ける。
- イ 切いもは120～150g程度に切断して、5月下旬～6月上旬に植え付ける。
- ウ 種子生産のための小切片による2年子生産は、5月下旬～6月上旬に植え付ける。
- エ 土壌くん蒸剤を使用した場合は、くん蒸剤の臭いがないことを確認してから植え付ける。

3 支柱立て・ネット張り

萌芽揃い前までにネット張りを完了する。

4 施肥

基肥量は、10a当たり窒素成分で6～10kgを基準とし、時期は利用効率の良い萌芽期（萌芽が50%の頃）に施用する。

にんにく

《生育状況》

- 1 4月の気温が平年より高く、日照時間も多い状況であったことから、管内全体の草丈・生葉数は平年並～上回っているが、茎径は平年並を下回る傾向にある。
- 2 一般ほ場の生育は、葉の黄化などの発生が少なく、順調な生育である。腐敗株の抜き取りが徹底され、春腐病の発生は散見される程度であるが、今後の広がりには注意する。さび病の発生は確認されていない。十和田市の一ほ場で黄斑病の発生が確認された（5月13日持込み確認）。

【生育観測ほの生育状況】

調査地	年次	植付期 (月日)	りん片 分化期 (月日)	5月10日現在		
				草丈 (cm)	生葉数 (枚)	茎径 (mm)
七戸町榎林	本年	10/17	4/17	75.3	8.4	17.8
	平年	10/2	4/18	70.8	7.6	20.4
	前年	9/21	4/15	66.2	7.6	18.1

注) 平年値は近10年間の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 病害虫防除

- ア 春腐病やさび病の発生は、降雨や濃霧が発病のきっかけとなるので、気象予報等を参考に降雨前の予防防除を行う。薬剤散布に当たっては、使用薬剤の選択(適用病害虫・総使用回数・収穫前日数等)に注意する。
- イ ネギコガ、ネギアザミウマ等の害虫は早期発見、発生初期の防除に努める。
- ウ 春腐病による腐敗株は散布前に抜き取る。
- エ 黄斑病の発生が確認されています。本病は急激に蔓延・葉枯れしやすい病害です。病斑をみつけたら、5～7日おきに薬剤散布し蔓延防止を図りましょう。

2 とうの摘み取り

抽だいが始まったら随時見回り、とうを摘み取って球の肥大を促す。とうの摘み取りは、総苞(とう先端部全体を包んでいる葉)が葉鞘から完全抽出した株に対して行う。

春だいこん

《生育状況》

- 1 生育観測ほ(トンネルマルチ栽培)の生育は、葉長、葉数ともに平年よりやや遅れている。肥大期の天候が良好だったため、根重は282.2gで平年比93%と回復傾向である。病害虫の発生は見られない。トンネル除覆は4月26日(前年比2日早い)であった。

- 2 一般ほ場の生育は概ね順調で、トンネル除覆は4月下旬から始まっている。病害虫の発生は例年同様に少ない。

【生育観測ほの生育状況（品種：春の星、栽培法：トンネルマルチ）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	5月10日現在		
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
おいらせ町内山平	本年	3/28	30.9	18.0	282.6
	平年	3/19	35.2	21.3	303.0
	前年	3/16	36.0	20.3	396.0

注) 平年値は令和5年までの過去10か年の平均値

《今後1か月の主な作業》

1 収穫

3月中旬には種した作型では、5月中～下旬頃が収穫期となるため、根部の肥大状況をよく確認し、適期に収穫する。

2 病害虫防除

キスジノミハムシの発生が見られるほ場では、トンネル除覆後に防除する。

春夏にんじん

《生育状況》

- 生育観測ほ（べた掛け栽培）の生育は、乾燥による発芽及び生育むらが一部に見られる。病害虫の発生は見られない。
- 一般ほ場の生育は概ね順調で、トンネルは5月第1半旬から、べた掛けは5月第2半旬から除覆作業が始まっている。病害虫の発生は見られない。

【生育観測ほの生育状況（品種：紅吉、栽培法：べた掛け）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	5月10日現在		
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
六戸町下吉田	本年	3/26	12.4	3.6	0.3
	平年	3/13	21.1	5.3	5.8
	前年	3/15	19.0	5.6	9.7

注) 平年値は令和5年までの過去10か年の平均値

《今後1か月の主な作業》

1 管理作業

トンネル・べた掛けの除覆作業、間引き作業及び除草管理を適期に行う。

2 病害虫防除

トンネル除覆後に、ニンジンハネオレバエの予防防除を行う。

ごぼう

《生育状況》

- 生育観測ほ（三沢市猫又）のは種は5月16日で、平年より15日遅かった。
- 一般ほ場の作溝及び土壌消毒作業は、4月上旬から始まり4月下旬が最盛期であった。は種は5月上旬から本格化している。

《今後1か月の主な作業》

1 畑の準備、土壌くん蒸剤の使用

- ア 排水対策を徹底し、堆肥の施用や土壌診断に基づいた施肥により、土づくりを行う。また、やけ症を未然に防止するため、未熟有機物や過剰な堆肥は施用しない。
- イ 土壌くん蒸剤の使用に当たっては、人畜への被害や周辺作物にドリフトしないよう対策を徹底する。特に、クロルピクリン剤を使用する場合は、すぐにポリエチレンフィルム等（厚さ0.03mm以上または難透過性の資材）で被覆し、使用済みの空き缶は、適切に処分する。

2 は種

- ア は種の際は、土壌の水分状況に留意する。シードテープの深さは、土壌水分が十分な時は0.5～1cm程度、乾燥の心配がある場合は2～3cm程度に調整し、出芽を揃えるため、植え溝は丁寧に鎮圧する。
- イ 土壌くん蒸剤を使用した場合は、くん蒸剤の臭いがないことを確認してからは種する。

ばれいしょ

《生育状況》

- 1 生育観測ほの植付期は平年より6日早い3月25日で、萌芽期は2日遅い5月3日であった。5月1日から芽出し作業が行われている。茎数は平年よりやや劣るものの、生育は順調である。
- 2 一般ほ場の生育は概ね順調で、萌芽は平年並の4月下旬～5月上旬で、5月下旬より芽出し作業が始まっている。また、萌芽が早かったほ場では芽欠き作業が始まっている。

【生育観測ほの生育状況(品種:メークイン、グリーンマルチ)】

調査地	年次	植付期 (月/日)	萌芽期 (月/日)	5月10日現在	
				草丈 (cm)	茎数 (本)
三沢市庭構	本年	3/25	5/3	18.2	2.1
	平年	3/31	5/1	12.3	2.4
	前年	3/25	4/24	11.3	2.1

注) 平年値は令和5年までの過去10か年の平均値

《今後1か月の主な作業》

1 追肥、中耕・培土

着蕾期（40～50%の株が蕾を付ける時期、5月下旬～6月上旬）に窒素成分で10a当たり4～5kgを追肥し、中耕・培土を行う。

2 病虫害防除

6月中旬になると疫病が発生しやすくなるので、発生前からの予防防除を主体に定期的に薬剤散布を行う。また、同一薬剤の過度な連用は避ける。

りんご

《生育状況》

生育観測ほの開花日は、「ジョナゴールド」が平年より8日早い4月27日、「玉林」が8日早い4月26日、「ふじ」が8日早い4月29日であった。

【生育観測ほの生育状況】

調査地	品 種	年次	発芽日 (月/日)	展葉日 (月/日)	開花日 (月/日)	満開日 (月/日)	落花日 (月/日)
十和田市米田	ジョナゴールド	本年	4/ 2	4/11	4/27	5/ 3	5/12
		平年	4/ 3	4/14	5/ 5	5/11	5/17
	王 林	本年	4/ 3	4/12	4/26	4/30	5/ 4
		平年	4/ 4	4/15	5/ 4	5/ 9	5/15
	ふ じ	本年	4/ 5	4/14	4/29	5/ 4	5/ 6
		平年	4/ 7	4/17	5/ 7	5/12	5/17

注) 平年値：ジョナゴールド・王林は平成22～令和5年の平均値、ふじは平成19～令和5年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 病害虫防除

黒星病の重点防除時期なので、りんご病害虫防除暦に記載された薬剤を、降雨前に10日間隔で散布し防除を徹底する。

腐らん病の発生が多く見られている。枝腐らんは、5～6月以降も発病してくるので見つけ次第切り取り、胴腐らんは、再発病斑を含め、適切に処置を行う。

2 摘 果

摘果は実止まりを確認後、すみやかに実施する。

果実形質の良し悪しが判然としない落花15日後頃までは一つ成り摘果とし、判別が可能になった時点から仕上げ摘果を行う。ただし、「つがる」などのように早期落果の多い品種は、落花10日後頃までに一つ成り摘果を終える。

仕上げ摘果は標準的な着果程度を目安に、「陸奥」、「世界一」は落花15日後頃までに、その他の品種では落花25日後頃までに終えるようにする。

牧 草

《生育状況》

生育観測ほの草丈は、平年を大幅に上回っている。

【生育観測ほの生育状況（品種：オーチャードグラス）】

調査地	年次	5月10日現在 草丈(cm)
十和田市米田	本年	74.5
	平年	53.1
	前年	60.3

注) 平年値は令和5年までの過去10か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

牧草の刈取りは出穂始期から出穂期に行い、開花始期までに終え、乾草又はサイレージ調製する。その後、速やかに追肥し、必要に応じて除草剤散布する。

飼料用とうもろこし

《今後1か月間の主な作業》

1 は 種

10a 当たり栽植本数は、極早生種で8,000本、早生種で7,000本、中生・晩生種で6,000本を標準とし、遅くとも5月中には種を終えるようにする。

2 雑草防除

各ほ場で例年発生が多い雑草の種類に応じて除草剤を選択し、農薬の登録内容等を確認して適正に使用する。